令和６年度全国学力・学習状況調査における萩市の結果について（概要）

萩市教育委員会学校教育課

１　調査の概要

（１）調査の目的

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）実施期日

令和６年４月１８日（木）

（３）調査を実施した学校数・児童生徒数

学年	学校数	児童生徒数
小学校第６学年	１６校	２７２名
中学校第３学年	１１校	２８２名

※ 弥富小、鈴野川小、相島小中は休校中。
※ 見島小、見島中、川上中は対象児童生徒なし

（４）調査の内容

①　教科に関する調査　（国語、算数・数学）
　ア　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
　イ　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
②　生活習慣や学習環境等に関する質問調査
　ア　児童生徒に対する調査（児童生徒質問）
　イ　学校に対する調査（学校質問）
＊調査問題の詳細は、国立教育政策研究所の「令和６年度全国学力・学習状況調査の調査問題について」（URL　https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm）で閲覧することができます。

２　教科に関する結果

（１）全体の結果

○**【県平均に対して】**小学校は、国語は県平均と同等、算数は県平均を下回った。中学校は、国語・数学ともに、県平均と同等であった。
【全国平均に対して】小学校は、国語は全国平均と同等、算数は全国平均を下回った。中学校は、国語・数学ともに全国平均と同等であった。

（２）教科ごとの結果

小学校				中学校			
区分	平均正答率（%）			区分	平均正答率（%）		
	萩市	山口県	全国		**萩市**	山口県	全国
国語	**６８**	６８	６７．７	国語	**５８**	５８	５８．１
算数	**６２**	６４	６３．４	数学	**５２**	５２	５２．５

（３）各教科に見られる成果と課題

（○：相当数の児童生徒ができている点　△：課題がみられる点）

※ゴシックは特に課題が見られる点

【小学校国語】

○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること

○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと

○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること

△学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと

△文の中における主語と述語との関係を捉えること

△目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること

【学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと】に関する問題

ア きょうぎの作戦を考えたりします。

上級生が遠くからボールをイ なげる

【解答】
ア　競技

イ　投げる

【文の中における主語と述語との関係を捉えること】に関する問題

一　原さんは、【物語】の［　　］について、かがやいているのは何だろうと考えています。次の〰〰部「かがやいています」の主語として適切なものを、あとの１から４までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

はらっぱじゅうの 1［　　］もやが、ひかりの雲にかわり、2［　　］そして、そのまんなかで、オニグモじいさんの 3［　　］巣は、かぞえきれないほどたくさんの小さなお日さまでできているように、きらきら、きらきらと、4［　　］まぶしくかがやいています。

1　もやが

2　そして

3　巣は

4　まぶしく

【解答】
3　巣は

【小学校算数】

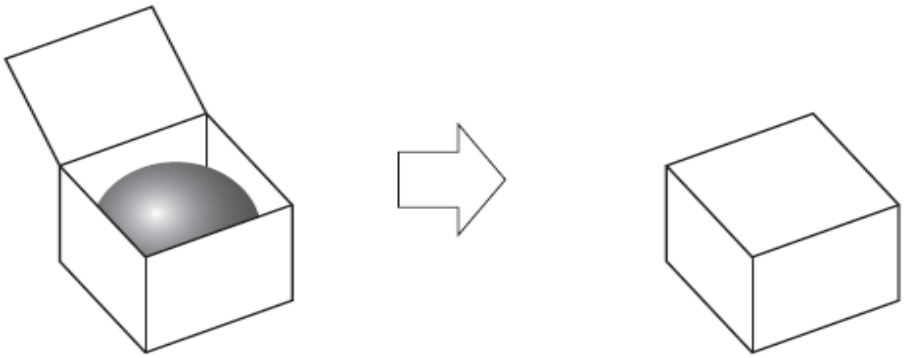
○数量の関係を、□を用いた式に表すこと
○計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できること
○円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること

△球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すこと
△除数が小数である場合の除法の計算をすること（５４０÷０．６）
△除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解すること（３５０÷０．７の商は５０より大きいか小さいか）
△道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できること

【球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すこと】に関する問題

(3)　直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。

このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

【解答】
２２×２２×２２

【中学校国語】

○目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること
○具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること
○行書の特徴を理解すること

△意見と根拠など情報と情報との関係について理解している
△文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること
△文の成分の順序や照応について理解すること

【意見と根拠など情報と情報との関係について理解している】に関する問題

三　**【話し合いの一部】**の――線部③「おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。」という発言について説明したものとして最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から一つ選びなさい。

1　おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるという事実を、具体例を示しながら述べている。
2　おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという意見を、理由を明確にして述べている。
3　おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるという意見を、理由を明確にして述べている。
4　おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという事実を、具体例を示しながら述べている。

【解答】
3

【中学校数学】

○問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができること
○与えられたデータから最頻値を求めること
○二つのグラフにおけるｙ軸との交点について、事象に即して解釈すること

△筋道を立てて考え、証明すること
△簡単な場合について、確率を求めること
△事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
△事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすこと

【筋道を立てて考え、証明すること】に関する問題

9 線分ＡＢがあります。線分ＡＢ上に点Ｃをとり、ＡＣ、ＣＢをそれぞれ１辺とする正三角形ＰＡＣ、ＱＣＢを、線分ＡＢについて同じ側につくります。そして、点Ａと点Ｑ、点Ｂと点Ｐを結びます。ただし、点Ｃは点Ａ、Ｂと重ならないものとします。

桃子さんは次の**図１**のように点Ｃをとり、健太さんは次の**図２**のように線分ＡＢの中点に点Ｃをとりました。

図１

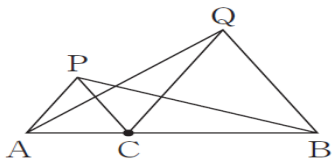
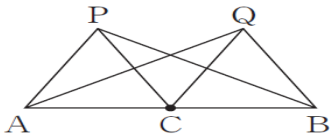
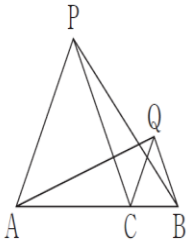


図２



(1) 桃子さんは、コンピュータを使って調べたことから、点Ｃが線分ＡＢ上のどこにあっても、ＡＱ＝ＰＢになると予想しました。

桃子さんの予想したＡＱ＝ＰＢがいつでも成り立つことは、△ＱＡＣ≡△ＢＰＣを示すことで証明できます。ＡＱ＝ＰＢになることの**証明**を完成しなさい。



証明

△ＱＡＣと△ＢＰＣにおいて、

合同な図形の対応する辺は等しいから、
ＡＱ＝ＰＢ

【解答例】
正三角形の辺はすべて等しいから、
ＡＣ＝ＰＣ ……①　　ＣＱ＝ＣＢ ……②
正三角形の１つの内角は６０°より、
∠ＡＣＱ＝６０°＋∠ＰＣＱ　　∠ＰＣＢ＝６０°＋∠ＰＣＱ
よって、∠ＡＣＱ＝∠ＰＣＢ ……③
①、②、③より、２組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、
△ＱＡＣ≡△ＢＰＣ

３　児童生徒質問の結果

◎「萩市ひとづくり推進計画」における成果指標に関わる質問項目を抜粋

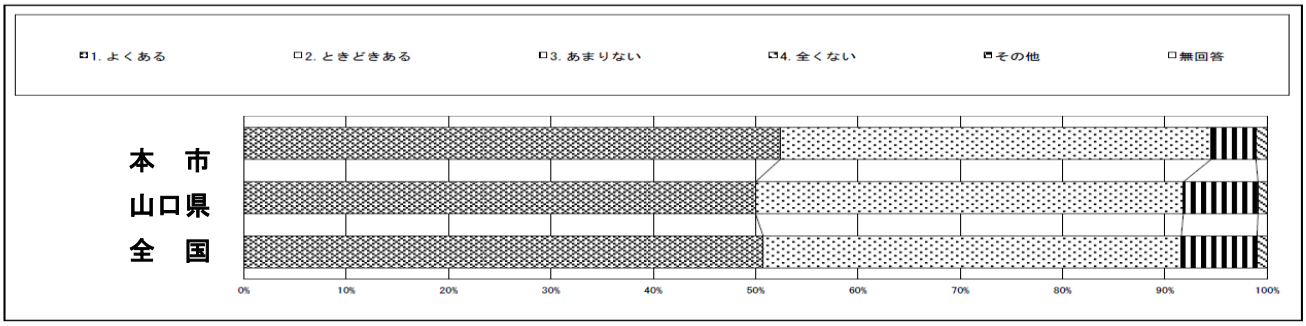
● 萩市として課題がある内容の質問項目を抜粋

◎子どもたちの意識について

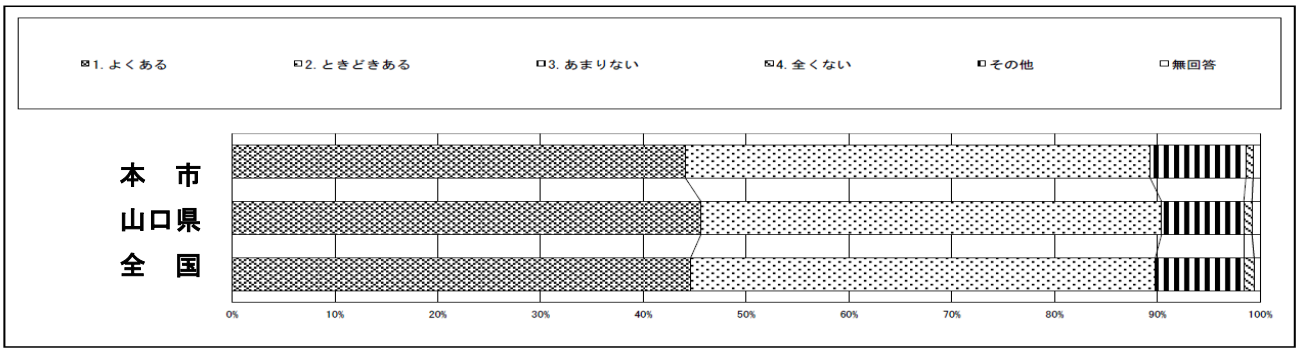
普段の生活の中で幸せな気持ちになる子ども、人の役に立ちたいと思っている子ども、将来の夢や目標をもっている子どもの割合は、特に小学生が県や全国と比べて高い。

新　質問：普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

【小学校】

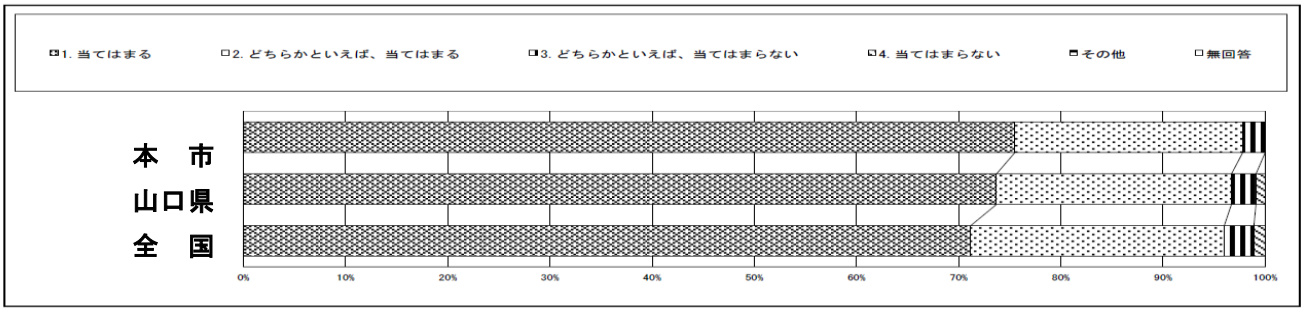


【中学校】

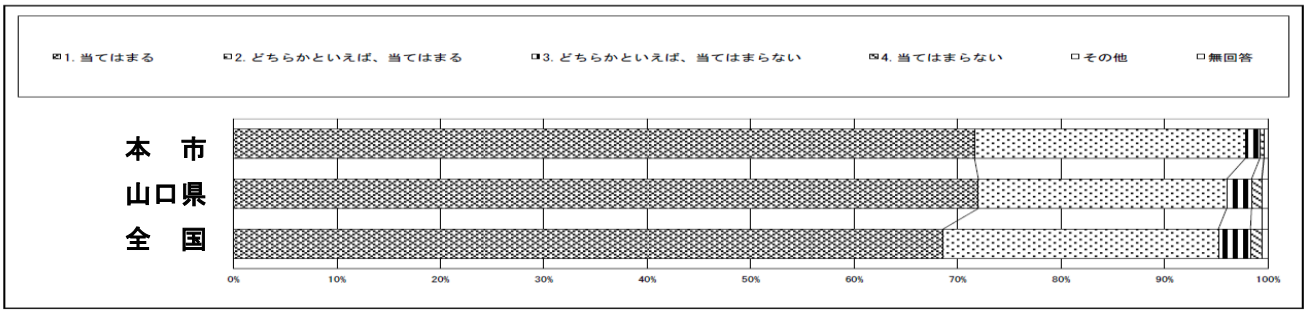


質問：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

【小学校】

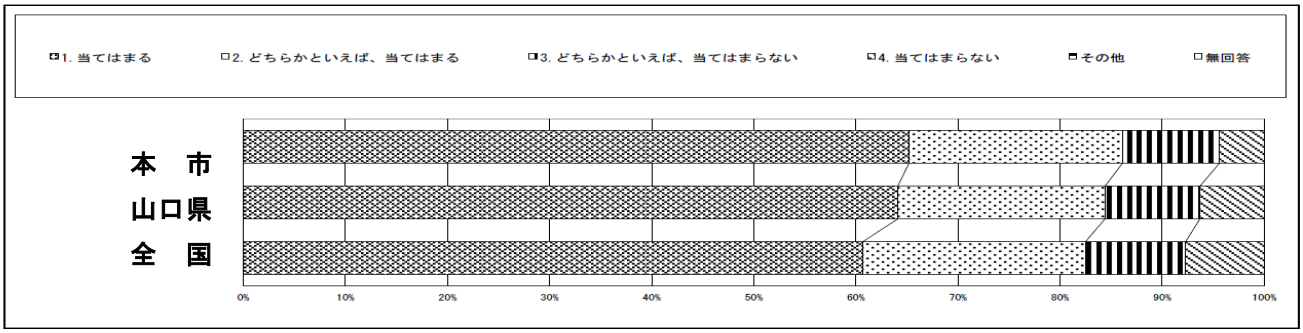


【中学校】

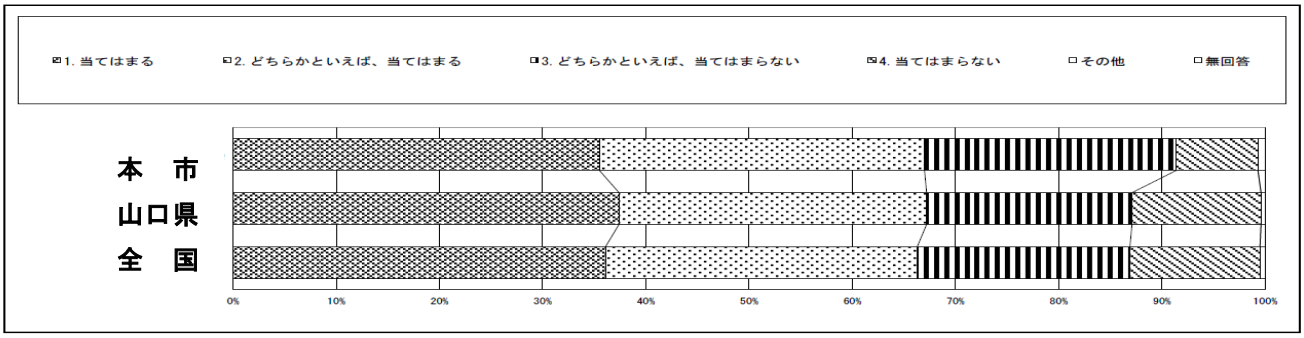


質問：将来の夢や目標をもっていますか。

【小学校】



【中学校】

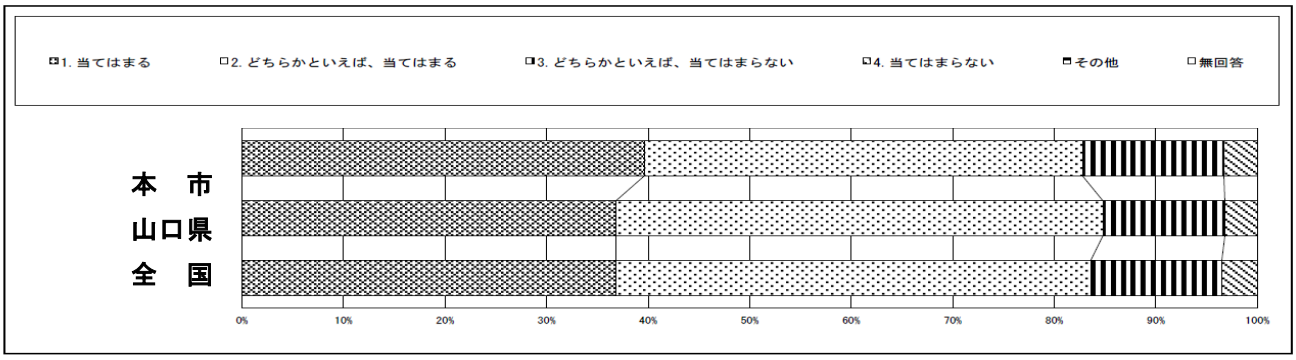


◎地域との関わりについて

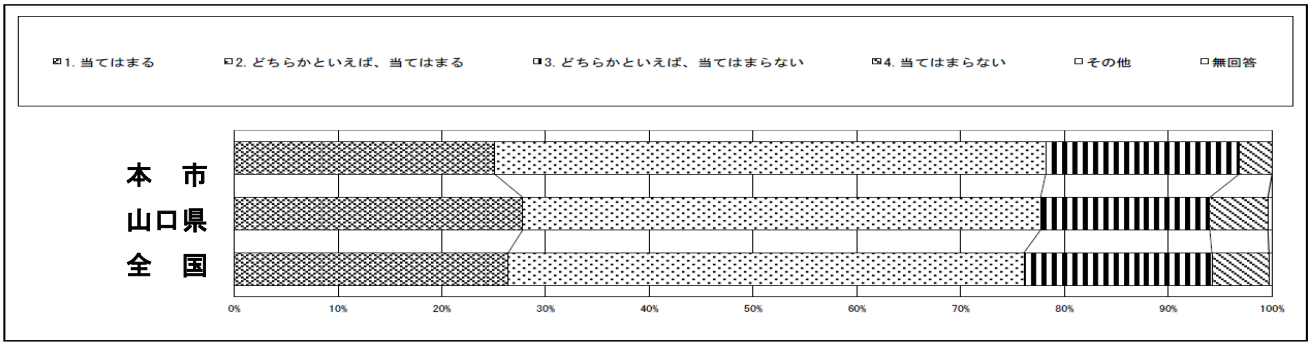
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている子どもの割合は、小・中学生ともに、県や全国と同程度である。

質問：地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

【小学校】



【中学校】

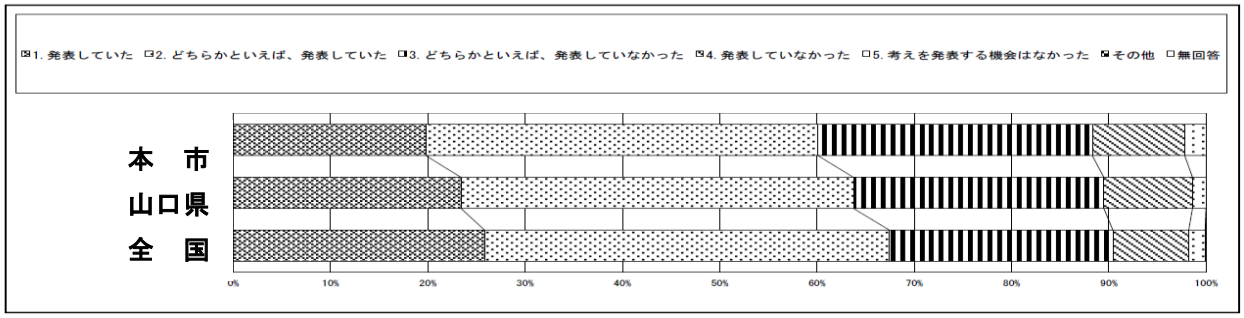


●学習への取組に関わること

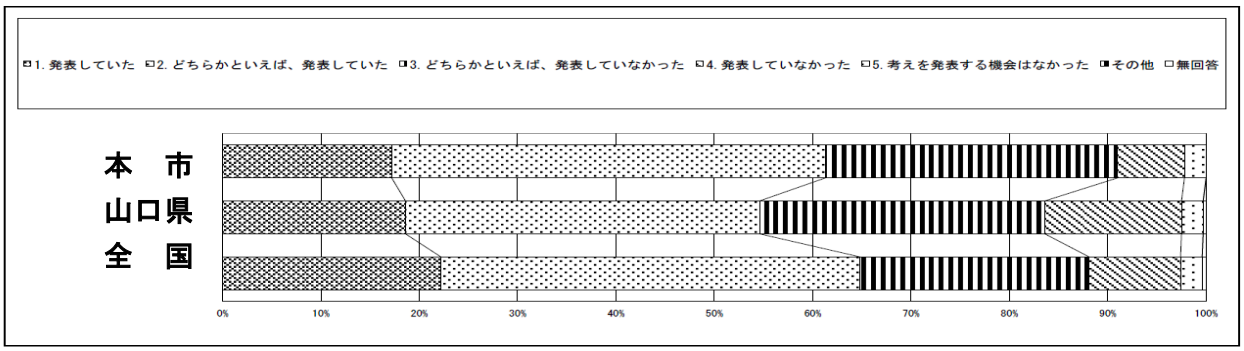
自分の考えが伝わるように工夫して発表しているかや課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるかに「当てはまる」と回答した子どもは、県や全国と比べて、低い。

質問：自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

【小学校】

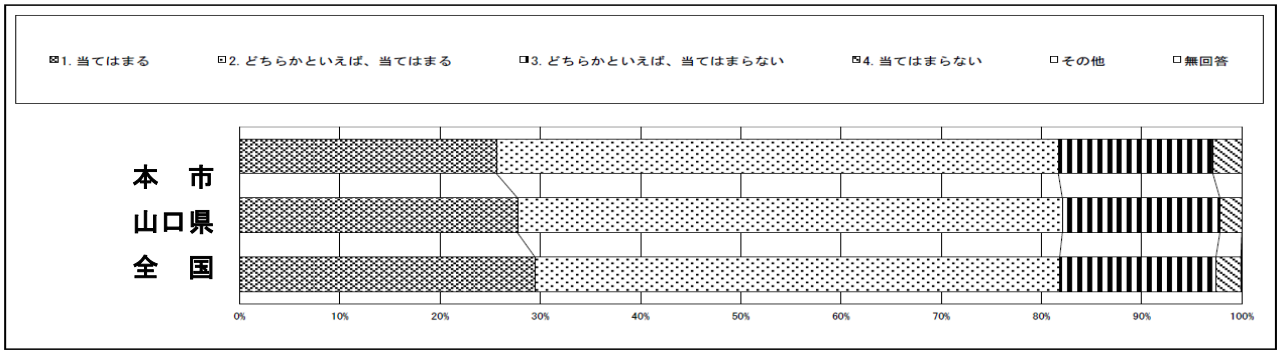


【中学校】

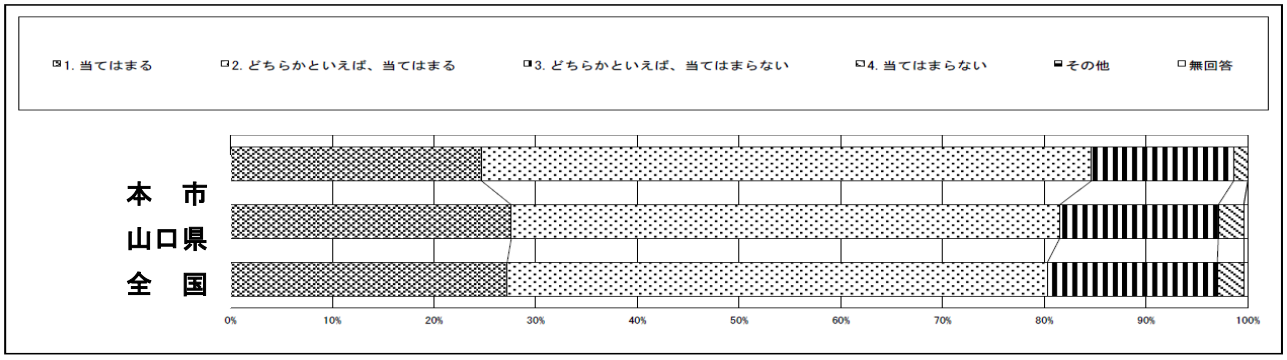


質問：課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

【小学校】



【中学校】

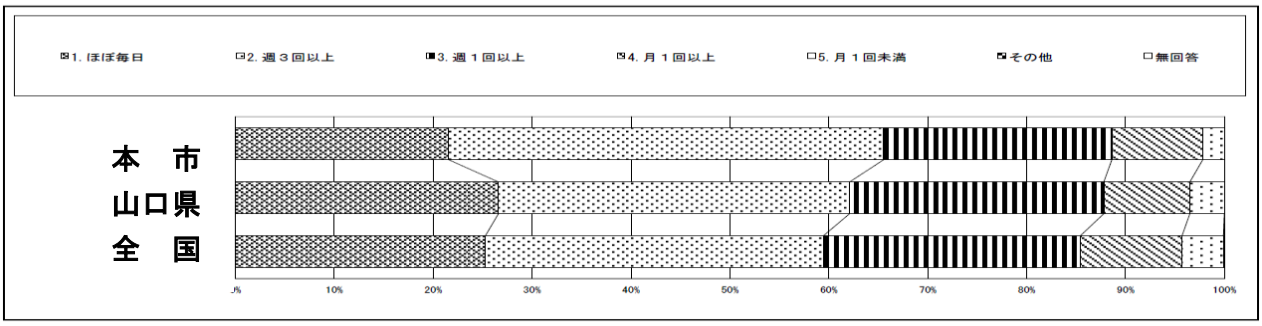


●ＩＣＴの活用及びＩＣＴ機器に対する意識について

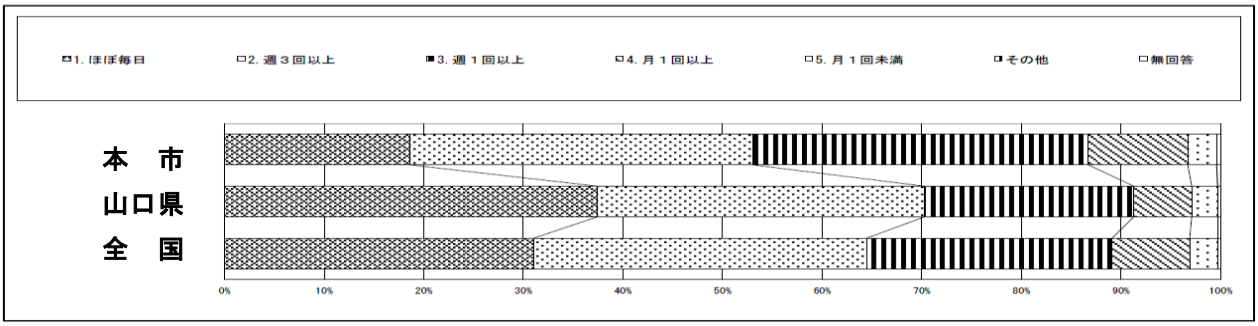
ＩＣＴを週３日以上使用した授業の頻度は、中学校は全国や県と比べて下回っている。

質問：５年生（中：２年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用しましたか。

【小学校】



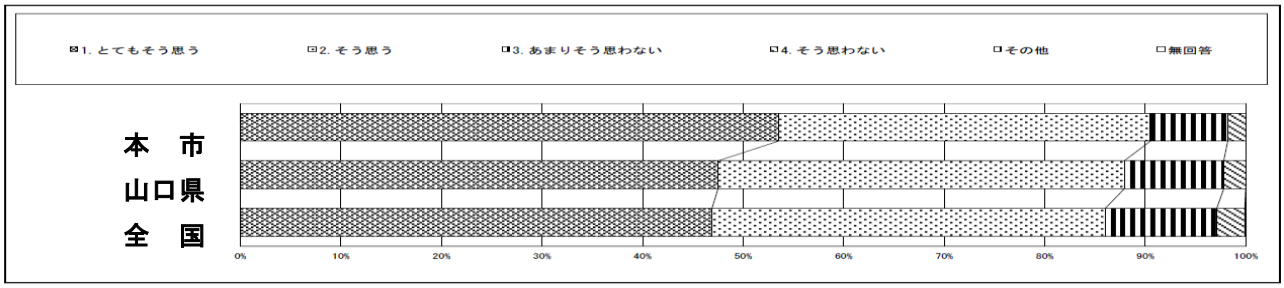
【中学校】



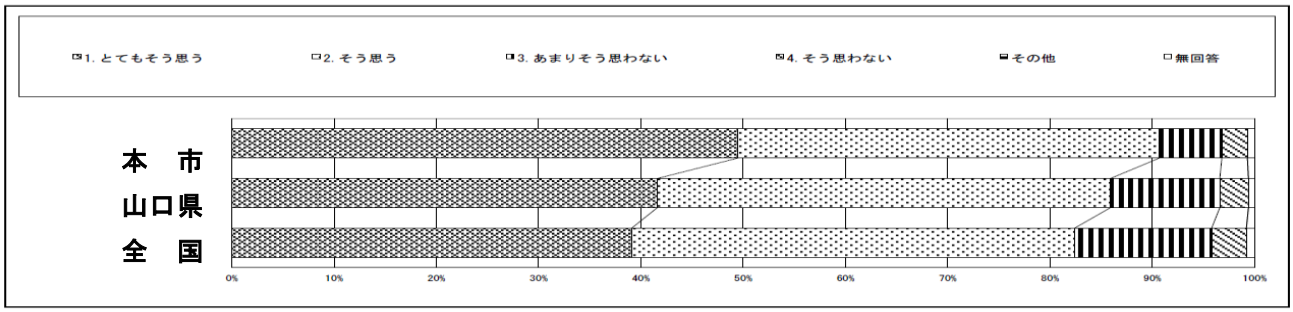
学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができると思う子どもの割合は、小・中学生いずれも全国や県と比べて高い。

質問：学習の中でPC・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる。

【小学校】



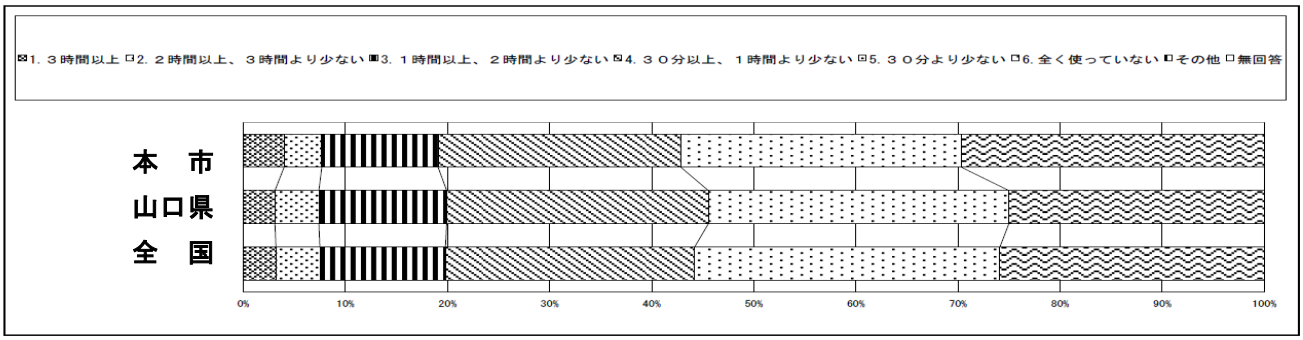
【中学校】



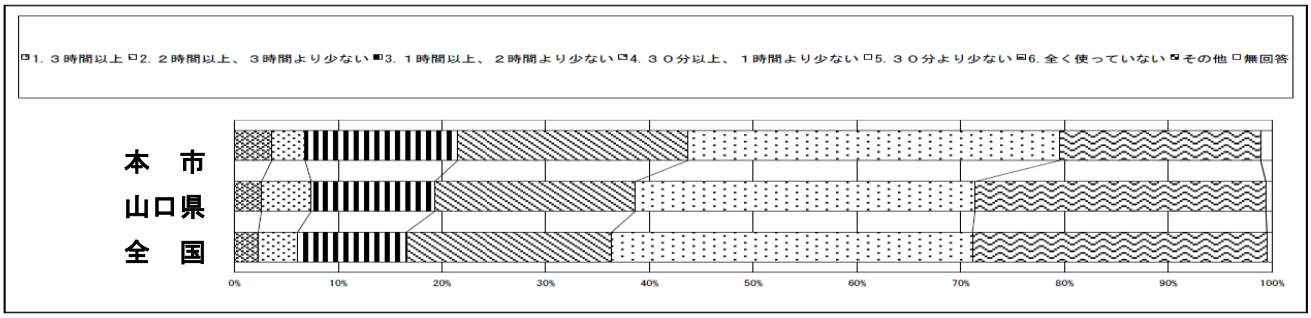
学校の授業以外でICT機器を使っている割合は全国や県と同等だが、全く使っていない小学生の割合が、全国や県と比べてやや高い。

質問：学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）。

【小学校】



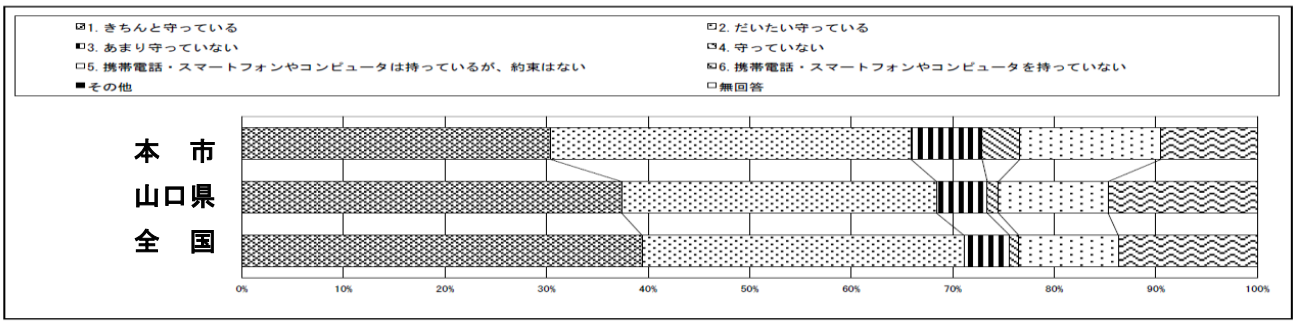
【中学校】



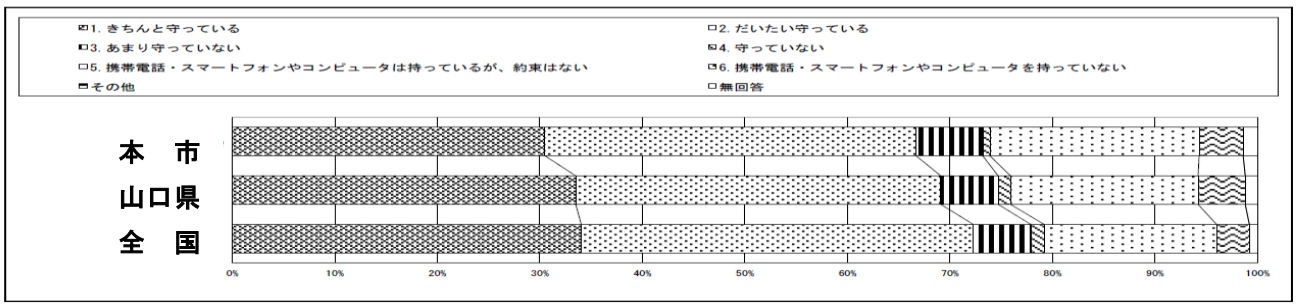
ICT機器の使い方について家の人と約束をしたことを「きちんと守っている」と回答した小・中学生の割合が、全国や県と比べて、やや低い。

質問：携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

【小学校】



【中学校】



４　今後の重点取組事項

（１）学校全体での組織的な取組・体制の充実

① 調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けて

ア 児童生徒の課題に対して、即時的にすぐに手が打てる内容については、授業や家庭学習の中で早急に課題の克服を図る。また身につけた知識・技能を活用する課題解決的な学習を授業の中に意図的に仕組む。これらの内容を、校内研修に位置付けて、全教職員で継続的な取組を行い、改善を図る。

【即時対応・組織的対応】

イ 正答だけでなく、誤答の記述や解答類型を分析することにより、課題を焦点化し、授業等で具体的に指導する。

【誤答分析による授業改善】

ウ 日々の授業で次のことに留意する。

○児童生徒に引き出したい振り返りを意識した授業づくりをする。振り返る活動を通して学びの自覚化を促す。**〈学びの自覚化〉**

○教科の基礎・基本の内容を活用して、考えをまとめ、表現したり、出し合った意見について練り合ったりする場を設定する。**〈インプットしたことをアウトプットする場の充実〉**

○児童生徒が課題に応じて、自分で学び方を工夫できるような場面を設定する。

〈自己選択・自己決定の場の設定〉

○知識・技能の定着のため、反復・復習の時間を設ける。**〈定着のための時間の確保〉**

○つまずきのある児童生徒への支援を徹底する。**〈個に応じた支援の徹底〉**

エ ICT機器を効果的に活用した学習活動の展開により、児童生徒同士の学びあいを中心とした授業に変えることで、「主体的に考え行動する力」を育成する。**【ICTの効果的活用】**

【指標とする質問】

・小学５年生（中学２年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか

（週３回以上使用　目標値：〈小〉61.9%(R5)→65.6%(R6)➡目標70.0%

〈中〉55.7%(R5)→53.0%(R6)➡目標70.0%

・ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる

・ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる

・ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる

（２）中学校区の小中学校間・家庭・地域との連携

【めざす青少年の姿】
●ふるさとに誇りと愛着をもつ青少年の育成
●高い志と進取の気概をもつ青少年の育成
●人や社会と積極的に関わる青少年の育成

① 地域の課題に向き合い、社会や地域の一員として何をなすべきかを考える学習活動や学校やふるさとの良さについて語る活動を意図的・計画的に仕組み、学校・地域連携カリキュラムに位置付けた成果を検証する。

【指標とする質問】

・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
（目標値：〈小〉82.8%（当てはまる39.6%）➡「当てはまる」を増加させる
〈中〉78.1%（当てはまる25.1%）➡「当てはまる」を増加させる
・人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
・将来の夢や目標をもっていますか。

② 望ましい学習習慣やよりよい生活習慣の定着について、家庭・地域や関係機関と連携して取組の改善を図る。

【指標とする質問】

・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。
（目標値：〈小〉80.2%（できている26.7%）➡「できている」を増加させる
〈中〉83.2%（できている26.2%）➡「できている」を増加させる
・学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
・携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

（３）市教委としての取組

○ 複式学習指導員や英語学習指導員、ICTを活用した授業改善指導員、および学力向上担当教員との定期的に情報交換・課題共有の場を設け、担当指導主事による学校への指導・支援体制の充実を図るとともに、市教委主催の研修会で、各学校の成果のあった好事例を取り上げ、共有する。
○ 学校運営協議会で、一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな支援ができるような熟議が行われるよう積極的に指導・助言するとともに、よい取組について横展開をする。